

I 調査結果の概要

1 素材需給の動向

(1) 素材の需要

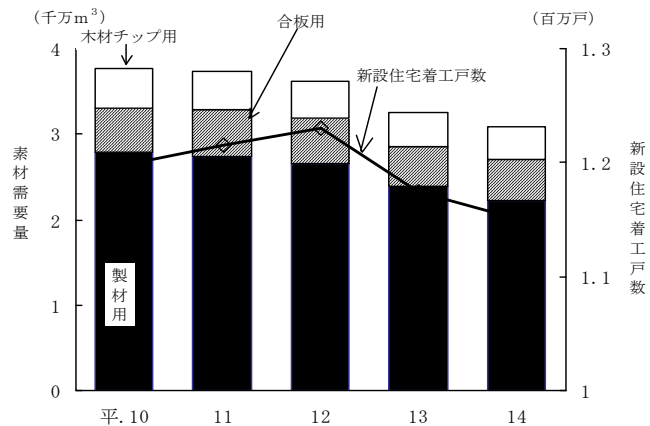
平成14年の素材の需要量は3,090万2千m³で、前年に比べ169万m³（5.2%）減少した。

これを需要部門別にみると、「製材用」は2,232万1千m³で、新設住宅着工戸数が減少したこと等により前年に比べ155万8千m³（6.5%）減少した。また、「木材チップ用」は385万7千m³で、原材料の解体材・廃材が増加したこと等により前年に比べ20万5千m³（5.0%）減少した。

一方、「合板用」は472万4千m³で、前年に比べ7万3千m³（1.6%）増加した。

この結果、需要部門別の構成割合は、「製材用」が72.2%、「合板用」が15.3%、「木材チップ用」が12.5%となった。（第1表、図1）

図1 素材の需要量及び新設住宅着工戸数の推移



資料：新設住宅着工戸数は国土交通省『建築着工統計』による。

第1表 需要部門別、供給部門別素材需給

需要部門	供給部門	計	国産材				外材					
			小計	針葉樹	広葉樹	小計	南洋材		米材	北洋材	ニュージランド材	その他
							ラワン材					
実数												
計		30 902	15 092	12 420	2 672	15 810	2 159	1 268	6 412	5 019	1 641	579
製材用		22 321	11 142	10 818	324	11 179	333	60	6 362	3 010	1 048	426
合板用		4 724	279	224	55	4 445	1 811	1 202	21	1 895	576	142
木材チップ用		3 857	3 671	1 378	2 293	186	15	6	29	114	17	11
対前年比												
計		94.8	95.7	96.7	91.3	94.0	92.8	87.1	90.7	96.1	94.9	122.9
製材用		93.5	94.7	94.9	89.0	92.3	80.8	93.8	91.0	91.0	98.0	127.9
合板用		101.6	153.3	228.6	65.5	99.5	95.2	86.7	72.4	106.8	90.1	114.5
木材チップ用		95.0	95.9	102.4	92.5	78.8	115.4	100.0	60.4	81.4	81.0	78.6
構成比												
計		100.0	48.8	40.2	8.6	51.2	7.0	4.1	20.7	16.2	5.3	1.9
製材用		100.0	49.9	48.5	1.5	50.1	1.5	0.3	28.5	13.5	4.7	1.9
合板用		100.0	5.9	4.7	1.2	94.1	38.3	25.4	0.4	40.1	12.2	3.0
木材チップ用		100.0	95.2	35.7	59.5	4.8	0.4	0.2	0.8	3.0	0.4	0.3

単位 { 需要量・供給量:千m³
比率:%

(参考) 関連統計表

年次	1) 新設住宅着工戸数				2) 製材品輸入量		3) 合板輸入量		4) 紙・板紙生産量	
	実数	対前年比	うち、木造住宅	うち、木造住宅	実数	対前年比	実数	対前年比	実数	対前年比
	(千戸)	(%)	(千戸)	(%)	(千m ³)	(%)	(千m ³)	(%)	(千t)	(%)
平.10	1 198	86.4	545	89.2	7 539	61.9	3 704	72.8	29 886	96.4
11	1 215	101.4	566	103.7	9 434	125.1	4 523	122.1	30 631	102.5
12	1 230	101.3	556	98.3	9 951	105.5	4 609	101.9	31 828	103.9
13	1 174	95.4	523	94.1	8 980	90.2	4 559	98.9	30 717	96.5
14	1 151	98.1	504	96.4	8 604	95.8	4 663	102.3	30 686	99.9

資料：1)は国土交通省『建築着工統計』、2)及び3)は財務省『貿易統計』、4)は経済産業省『紙・パルプ統計』による。

(2) 素材の供給

平成14年の素材の供給量（＝需要量）を国産材、外材別にみると、国産材は1,509万2千㎡で、前年に比べ68万2千㎡（4.3%）減少した。

また、外材は1,581万㎡で、前年に比べ100万8千㎡（6.0%）減少した。

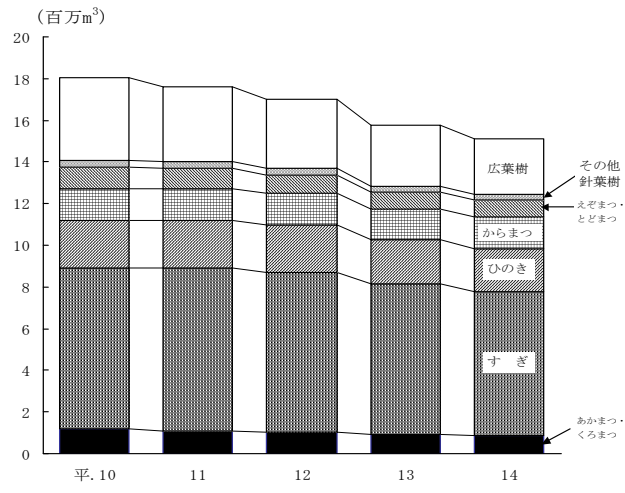
この結果、素材の供給量に占める国産材の割合は48.8%となり、前年に比べ0.4ポイント増加した。（第1表）

図2 樹種別素材生産量の推移

ア 国産材の供給

国産材供給量（素材生産量）を針葉樹、広葉樹別にみると、針葉樹は1,242万㎡、広葉樹は267万2千㎡で、前年に比べそれぞれ42万6千㎡（3.3%）、25万6千㎡（8.7%）減少した。

また、樹種別にみると、「からまつ」が合板用の需要が増加したこと等により前年に比べ2.8%増加したものの、他の樹種はいずれも減少した。（第2表、図2）



第2表 需要部門別、供給部門別国産材供給量

供給部門	計	針葉樹							広葉樹				
		小計	あかまつ・くろまつ	すぎ	ひのき	からまつ	えぞまつ・とどまつ	その他	小計	なら	ぶな	その他	
実数													
計	15 092	12 420	889	6 860	2 080	1 525	809	257	2 672	131	47	2 494	
製材用	11 142	10 818	431	6 416	2 009	1 104	705	153	324	56	24	244	
合板用	279	224	13	48	0	146	6	11	55	2	6	47	
木材チップ ^o 用	3 671	1 378	445	396	71	275	98	93	2 293	73	17	2 203	
対前年比													
計	95.7	96.7	96.1	95.2	97.5	102.8	98.5	91.5	91.3	85.1	70.1	92.1	
製材用	94.7	94.9	85.5	94.3	97.2	96.6	98.9	90.5	89.0	82.4	66.7	93.8	
合板用	153.3	228.6	118.2	4800.0	...	171.8	600.0	-	65.5	66.7	60.0	66.2	
木材チップ ^o 用	95.9	102.4	108.5	100.3	106.0	107.8	91.6	83.0	92.5	88.0	81.0	92.7	

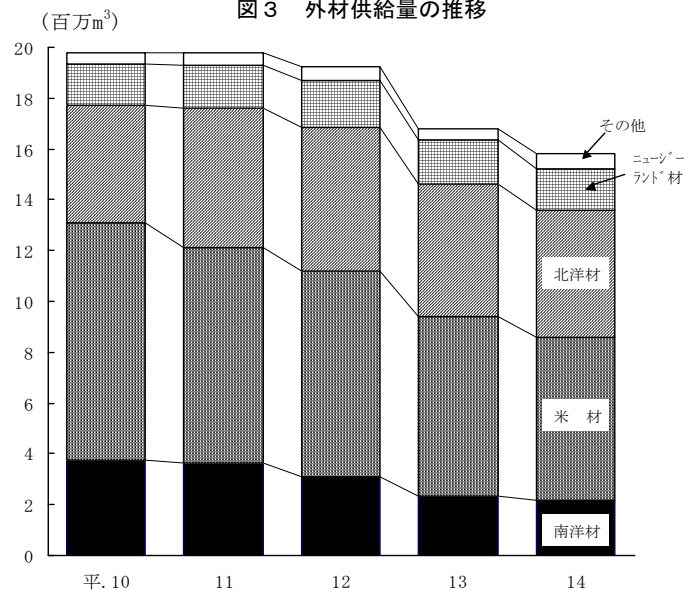
単位 { 生産量：千m³
比率：%

イ 外材の供給

外材供給量を産地材別にみると、「米材」は641万2千㎡で米材の需要減から前年に比べ65万6千㎡（9.3%）減少、「北洋材」は501万9千㎡で産地での出材量が少なくなったこと等により前年に比べ20万4千㎡（3.9%）減少、「南洋材」は215万9千㎡で合板産業の針葉樹への原料転換等により前年に比べ16万8千㎡（7.2%）減少した。

（第1表、図3）

図3 外材供給量の推移



2 木材産業の動向

(1) 製材業

平成14年の製材業の動向をみると、12月31日現在の製材工場数（製材用動力の出力数が7.5kW未満の工場を除く。）は1万429工場で、前年に比べ5.4%減少した。また、製材用素材入荷量、製材用素材消費量、製材品出荷量は輸入製材品が前年に比べ減少したものの、新設住宅着工戸数が前年を下回ったこと等の影響によりいずれも減少した。

しかし、製材品出荷量のうち人工乾燥材については、市場からの需要増により、前年に比べ15.7%増加した。

ア 製材工場数及び製材用動力の出力数

製材工場数は1万429工場で、前年に比べ591工場（5.4%）減少した。

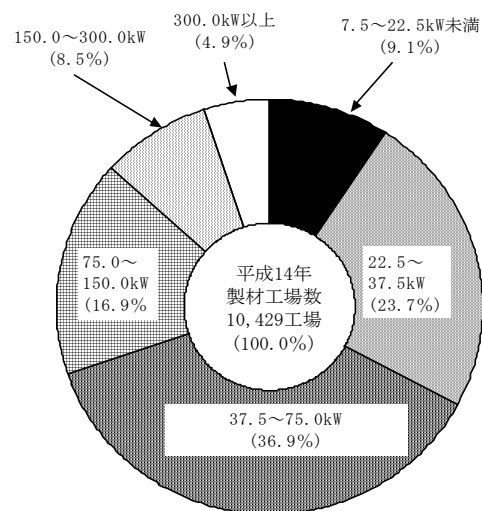
これを製材用動力の出力階層別にみると、すべての階層で減少した。

また、製材用動力の総出力数は95万659kWで、前年に比べ4万985kW減少したものの、1工場当たりの出力数は91.2kWで、前年に比べ1.2kW増加した。（第3表、図4）

第3表 製材用動力の出力階層規模別工場数

出力階層	単位 { 工場数:工場 比率:% }			
	平. 14	13	対前年比	1工場当たり出力数 kW
計	10 429	11 020	94.6	91.2
7.5~ 22.5kW未満	948	1 050	90.3	...
22.5~37.5	2 468	2 533	97.4	...
37.5~75.0	3 849	4 092	94.1	...
75.0~150.0	1 766	1 888	93.5	...
150.0~300.0	886	918	96.5	...
300.0kW以上	512	539	95.0	...

図4 製材用動力の出力階層別工場数の構成割合



イ 製材工場従業者数

12月31日現在（12月操業）の従業者数は6万2,372人で、前年に比べ4,640人（6.9%）減少した。また、1工場当たりの従業者数は6.0人で、前年に比べ0.1人減少した。

1万429工場のうち、12月に操業した製材工場数は1万394工場で、前年に比べ601工場（5.5%）減少した。（第4表）

第4表 従業者数規模別製材工場数及び従業者数（12月操業）

年次	単位 { 工場数:工場 比率:% }								従業者数 (12月31日現在)
	計	4人以下	5~9	10~19	20~29	30~49	50人以上		
実数									人
平. 14	10 394	5 998	2 832	1 134	280	110	40	62 372	
13	10 995	6 163	3 087	1 275	304	128	38	67 012	
対前年比									
平. 14	94.5	97.3	91.7	88.9	92.1	85.9	105.3	93.1	
13	94.3	97.8	90.2	91.3	84.7	94.1	80.9	91.0	
構成比									人
平. 14	100.0	57.7	27.2	10.9	2.7	1.1	0.4	6.0	1)
13	100.0	56.1	28.1	11.6	2.8	1.2	0.3	6.1	1)

注：1) は、1工場当たりの従業者数である。

ウ 製材用素材入荷量

(ア) 製材用素材入荷量は2,232万1千㎡で、前年に比べ155万8千㎡(6.5%)減少した。

これを国産材、外材別にみると、「国産材」の入荷量は、1,114万2千㎡、「外材」の入荷量は1,117万9千㎡で、それぞれ5.3%、7.7%減少した。

この結果、製材用素材入荷量に占める国産材の割合は49.9%で、前年を0.6ポイント上回った。

国産材の入荷量を針葉樹、広葉樹別にみると、「針葉樹」は1,081万8千㎡、「広葉樹」は32万4千㎡で、前年に比べそれぞれ5.1%、11.0%減少した。

外材の入荷量を産地別にみると、「米材」が636万2千㎡、「北洋材」は301万㎡、「ニュージーランド材」は104万8千㎡、「南洋材」は33万3千㎡で、それぞれ9.0%、9.0%、2.0%、19.2%減少した。

(第1表、図5)

(イ) 素材の入荷があった製材工場は1万395工場、前年に比べ561工場(5.1%)減少した。

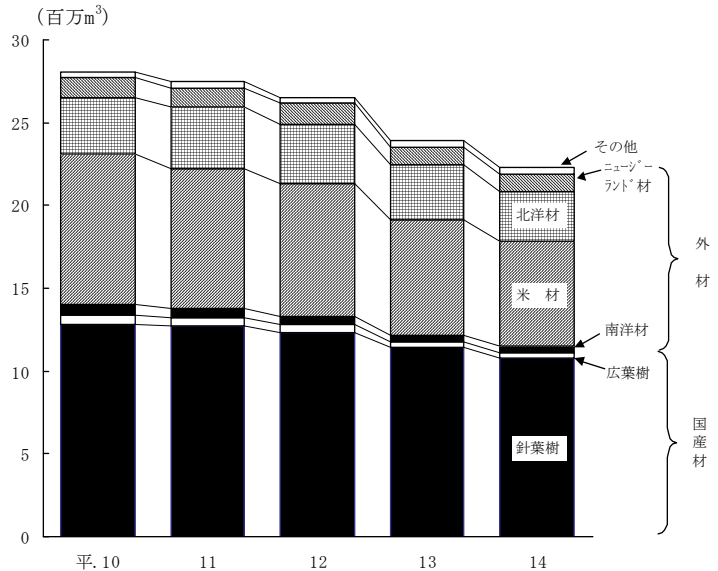
これを入荷類型別の工場数でみると、「国産材のみ」は5,082工場、「国産材と外材」は3,996工場、「外材のみ」は1,317工場、それぞれ3.6%、6.0%、8.2%減少した。

入荷量でみると、「国産材のみ」は873万8千㎡、「国産材と外材」は517万6千㎡、「外材のみ」の工場は840万7千㎡で、それぞれ3.3%、10.8%、7.0%減少した。

また、製材用動力の出力階層別にみると、300.0kW以上の工場が入荷量全体の4割以上を占め、300.0kW以上の入荷量のうち、特に外材のみを扱う工場では、6割以上を占めている。

(第5表)

図5 製材用素材の入荷量の推移



第5表 製材用動力の出力階層別、入荷類型別製材工場数及び入荷量

単位 { 工場数:工場
入荷量:千㎡³
比率:%

出力階層	計		国産材のみ		国産材と外材		外材のみ	
	工場数	入荷量	工場数	入荷量	工場数	入荷量	工場数	入荷量
実数								
計	10 395	22 321	5 082	8 738	3 996	5 176	1 317	8 407
7.5 ~ 22.5kW未満	944	254	610	164	271	69	63	21
22.5 ~ 37.5	2 459	1 021	1 368	528	903	398	188	95
37.5 ~ 75.0	3 833	3 144	1 783	1 526	1 642	1 150	408	468
75.0 ~ 150.0	1 764	3 843	704	1 516	739	1 267	321	1 060
150.0 ~ 300.0	884	4 100	386	1 925	311	1 101	187	1 074
300.0kW以上	511	9 959	231	3 079	130	1 191	150	5 689
対前年比								
計	94.9	93.5	96.4	96.7	94.0	89.2	91.8	93.0
7.5 ~ 22.5kW未満	91.9	84.9	86.8	84.5	99.3	70.4	123.5	300.0
22.5 ~ 37.5	97.5	88.5	97.0	85.2	97.9	91.3	98.9	96.9
37.5 ~ 75.0	94.1	89.8	98.1	96.3	90.8	86.0	91.7	80.7
75.0 ~ 150.0	93.8	89.1	96.7	90.8	95.0	90.7	85.6	85.0
150.0 ~ 300.0	96.5	92.1	101.6	101.3	94.5	83.3	90.3	87.3
300.0kW以上	95.2	98.0	100.0	100.3	92.9	97.9	90.4	96.9

注：工場数は、平成14年に製材用素材の入荷のあった工場数である。

エ 製材用素材消費量

製材用素材消費量は2,196万3千 m^3 で、前年に比べ162万6千 m^3 （6.9%）減少した。これを製材用動力の出力階層別にみると、全ての階層で減少した。なお、1工場当たりの素材消費量は2,106 m^3 で、前年に比べ36 m^3 （1.7%）減少した。（第6表）

第6表 製材用動力の出力階層別製材用素材消費量

出力階層	素材消費量		1工場当たり素材消費量	
	対前年比	構成比	対前年比	
計	21 963	93.1	100.0	2 106 98.3
7.5 ~ 22.5kW未満	250	83.3	1.1	264 92.3
22.5 ~ 37.5	1 011	89.6	4.6	410 91.9
37.5 ~ 75.0	3 072	89.3	14.0	798 95.0
75.0 ~150.0	3 784	89.3	17.2	2 143 96.4
150.0 ~300.0	4 056	91.7	18.5	4 578 95.0
300.0kW以上	9 790	97.3	44.6	19 121 102.4

単位 { 素材消費量：千 m^3
1工場当たり： m^3
比率：%

オ 製材品生産量及び出荷量

製材品生産量は1,406万 m^3 、出荷量は1,440万2千 m^3 で、前年に比べそれぞれ7.4%、7.0%減少した。

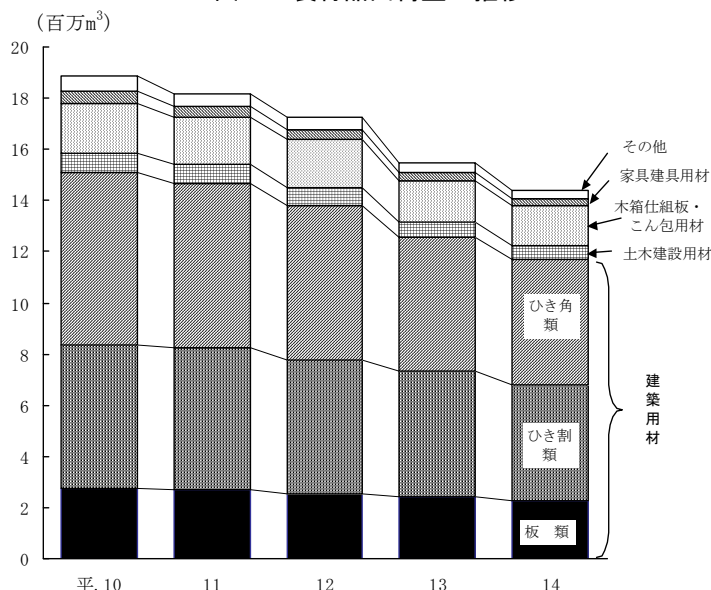
1工場当たりの製材品生産量は1,353 m^3 で、前年に比べ24 m^3 減少した。（第7表）

出荷量を用途別にみると、「建築用材」は1,167万5千 m^3 、「土木建設用材」は57万8千 m^3 、「木箱仕組板・こん包用材」は153万6千 m^3 、「家具・建具用材」は25万5千 m^3 でそれぞれ7.2%、5.7%、3.3%、18.5%減少した。

（図6）

また、人工乾燥材は179万 m^3 で市場からの需要増等により前年に比べ15.7%増加した。（第7表）

図6 製材品出荷量の推移



第7表 製材品生産量及び出荷量

年次	製材品生産量		1工場当たり製材品生産量		製材品出荷量		うち、人工乾燥材出荷量	
	対前年比		対前年比		対前年比		対前年比	
平. 10	18 625	85.8	1 454	90.4	18 875	86.0
11	17 952	96.4	1 461	100.5	18 165	96.2
12	17 094	95.2	1 462	100.1	17 231	94.9
13	15 179	88.8	1 377	94.2	15 486	89.9	1 547	...
14	14 060	92.6	1 353	98.3	14 402	93.0	1 790	115.7

単位 { 生産量・出荷量：千 m^3
1工場当たり： m^3
比率：%

(2) 合単板製造業

平成14年の合単板製造業の動向をみると、12月31日現在の合単板工場数は306工場で、前年に比べ7.0%減少した。

普通合板の製造量は273万5千㎡、特殊合板の製造量は124万㎡で、前年に比べそれぞれ1.3%、12.4%減少した。

ア 合単板工場数及び従業者数

合単板工場数は306工場で、前年に比べ23工場（7.0%）減少した。

これを従業者数規模別にみると、50人未満の工場が74.5%を占めている。

従業者数は1万3,942人で前年に比べ8.4%減少し、1工場当たりの従業者数は45.6人で前年に比べ0.7人減少した。（第8表）

第8表 工場類型別、従業者規模別合単板工場数及び従業者数（12月31日現在）

単位 { 工場数:工場
従業者数:人
比率:%

工場類型	従業者数規模別工場数							従業者数		1工場当たり従業者数	
	計		9人以下	10~49	50~99	100~199	200~299	300人以上	実数		対前年比
	実数	対前年比									
計	306	93.0	105	123	37	26	9	6 13 942	91.6	45.6	
単板のみ	30	93.8	9	17	3	-	1	-	848	93.1	28.3
普通合板のみ	47	97.9	2	13	13	15	4	}	6 534	91.7	}
普通合板と特殊合板	14	77.8	-	5	2	2	2				
特殊合板のみ	215	93.1	94	88	19	9	2	3	6 560	91.3	30.5

イ 単板製造用素材入荷量及び仕向量

単板製造用素材の入荷量は472万4千㎡で前年に比べ1.6%増加した。

これを国産材、外材別にみると、国産材は27万9千㎡で前年に比べ53.3%増加したものの、外材は444万5千㎡で前年に比べ0.5%減少した。

また、単板製造を目的として振り向けた素材の量（仕向量）は483万9千㎡で、前年に比べ3.2%増加した。

これを国産材、外材別にみると、国産材は28万4千㎡で、前年に比べ45.6%増加したものの、外材は455万5千㎡で前年に比べ1.4%増加した。（第9表）

第9表 単板製造用素材入荷量及び仕向量

単位 { 入荷量・仕向量:千㎡³
比率:%

年次	入荷量			仕向量		
	計	国産材	外材	計	国産材	外材
平. 10	5 064	156	4 908	5 356	163	5 193
11	5 524	156	5 368	5 410	152	5 258
12	5 401	138	5 263	5 423	144	5 279
13	4 651	182	4 469	4 689	195	4 494
14	4 724	279	4 445	4 839	284	4 555
対前年比	101.6	153.3	99.5	103.2	145.6	101.4
構成比	100.0	5.9	94.1	100.0	5.9	94.1

ウ 普通合板製造量及び出荷量

普通合板製造量は273万5千 m^3 で、前年に比べ1.3%減少した。

これは工場数が減少したことや合板の輸入量が増加したこと等による。

製造量を厚さ別にみると、「12mm以上」は前年に比べ3.9%増加したが、「3mm未満」、
「3～6mm未満」及び「6～12mm以上」はそれぞれ25.5%、18.4%、10.7%減少した。

出荷量は271万8千 m^3 で、前年に比べ2.6%増加した。（第10表、図7）

第10表 普通合板製造量及び出荷量

		単位 { 製造量・出荷量：千 m^3 比率：%		
区	分	平. 14	13	対前年比
普通合板製造量		2 735	2 771	98.7
3 mm	未 満	103	138	74.5
3	～ 6 mm	173	212	81.6
6	～ 12 mm	347	389	89.3
12 mm	以 上	2 112	2 032	103.9
普通合板出荷量		2 718	2 648	102.6

エ 特殊合板製造量及び出荷量

特殊合板製造量は124万 m^3 で、前年に比べ12.4%減少した。

これを種類別にみると、「オーバーレイ合板」、「プリント合板」、「塗装合板」、
「天然木化粧合板」及び「その他の合板」の全ての種類で前年に比べそれぞれ2.7%、
13.9%、15.2%、26.5%、10.0%減少した。

出荷量は124万1千 m^3 で、前年に比べ12.8%減少した。（第11表、図8）

第11表 特殊合板製造量及び出荷量

		単位 { 製造量・出荷量：千 m^3 比率：%		
区	分	平. 14	13	対前年比
特殊合板製造量		1 240	1 416	87.6
オーバーレイ合板		57	58	97.3
プリント合板		156	181	86.1
塗装合板		189	222	84.8
天然木化粧合板		86	117	73.5
その他の合板		753	837	90.0
うち、木質複合床板		621	694	89.4
特殊合板出荷量		1 241	1 423	87.2

(3) 木材チップ製造業

平成14年の木材チップ製造業の動向をみると、12月31日現在の木材チップ工場数は2,327工場、前年に比べ4.6%減少し、生産量及び出荷量は1,109万9千 m^3 、1,108万1千 m^3 で、前年に比べ、それぞれ8.3%、7.9%増加した。

ア 木材チップ工場数及び従業者数

木材チップ工場数は2,327工場、前年に比べ111工場（4.6%）減少した。

これを経営形態別にみると、「兼営」計は1,958工場と前年に比べ6.5%減少し、「兼営なし」は369工場で前年に比べ7.3%増加した。

木材チップ工場の従業者数は4,563人で前年に比べ5.9%減少した。これを従業者数規模別をみると、大部分が「4人以下」と小規模である。

また、1工場当たりの従業者数は前年と変わらず2.0人であった。（第12表）

第12表 経営形態別、従業者数規模別木材チップ工場数及び従業者数

工場類型	従業者数規模別工場数						従業者数		1工場当たりの従業者数
	計		4人以下	5～9	10～19	20人以上	実数	対前年比	
	実数	対前年比							
計	2 327	95.4	2 117	151	47	12	4 563	94.1	2.0
兼 営	1 958	93.5	1 910	34	11	3	…	…	…
製材工場	1 944	93.6	1 896	34	11	3	…	…	…
合板工場	14	82.4	14	-	-	-	…	…	…
兼営なし	369	107.3	207	117	36	9	…	…	…

単位 { 工場数：工場
従業者数：人
比率：%

イ 木材チップ用素材入荷量

木材チップ用素材入荷量は385万7千 m^3 で前年に比べ20万5千 m^3 （5.0%）減少した。

これを国産材、外材別にみると、「国産材」の入荷量は367万1千 m^3 、「外材」の入荷量は18万6千 m^3 で、前年に比べそれぞれ4.1%、21.2%減少した。（第13表）

第13表 木材チップ用素材入荷量

	単位 { 国産材・外材：千 m^3 比率：%		
	計	国産材	外材
実数			
平.10	4 710	4 502	208
11	4 407	4 198	209
12	4 336	4 098	238
13	4 062	3 826	236
14	3 857	3 671	186
対前年比	95.0	95.9	78.8
構成比	100.0	95.2	4.8

ウ 木材チップ生産量及び出荷量

木材チップ生産量は1,109万9千 m^3 で前年に比べ8.3%増加した。

これを原材料の入手区分別にみると、「工場残材」は473万7千 m^3 、「素材（原木）」は383万 m^3 で前年に比べそれぞれ3.0%、1.5%減少したが、「林地残材」は9万5千 m^3 、「解体材・廃材」は243万7千 m^3 で前年に比べそれぞれ171.4%、69.5%増加した。

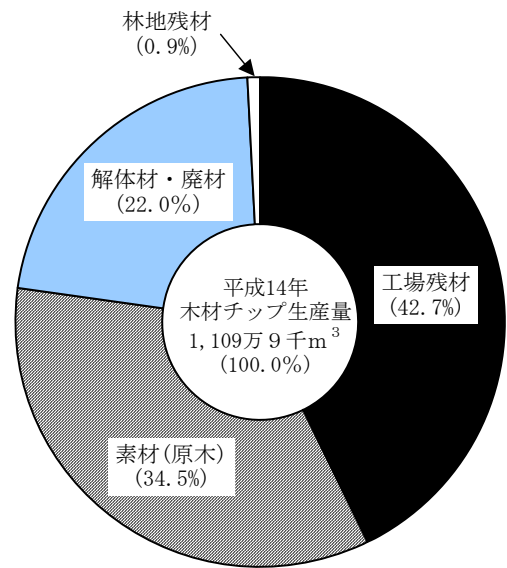
また、樹種別にみると、「針葉樹」は790万8千 m^3 、「広葉樹」は319万1千 m^3 で前年に比べそれぞれ10.6%、3.2%増加した。

出荷量は1,108万1千 m^3 で前年に比べ7.9%増加した。（第14表、図9）

第14表 木材チップの生産量及び出荷量

区 分	単位 { 生産量・出荷量：千m ³ 比 率：%		
	平. 14	13	対前年比
木材チップ生産量	11 099	10 244	108.3
(原材料別)			
素材(原木)	3 830	3 890	98.5
工場残材	4 737	4 881	97.0
林地残材	95	35	271.4
解体材・廃材	2 437	1 438	169.5
(樹種別)			
針葉樹	7 908	7 151	110.6
広葉樹	3 191	3 093	103.2
木材チップ出荷量	11 081	10 272	107.9

図9 木材チップにおける原材料別生産量割合



3 木材価格の動向

平成14年の木材価格の動向をみると、年間を通じて低下傾向で推移した。これは木造住宅着工戸数の減少により木材製品の需要が減少したこと等による。

(1) 素材価格（丸太価格）（第15表、図10）

ア 「まつ中丸太」（径24～28cm、長3.65～4m）の価格は年前半低下傾向で推移し、後半から上昇傾向に転じたものの、年平均（1㎡当たり。以下同じ。）では1万7,600円で前年に比べ1,900円低下した。

イ 「すぎ中丸太」（径14～22cm、長3.65～4m）の価格は低下傾向で推移しており、年平均では1万4,000円で前年に比べ1,700円低下した。

ウ 「ひのき中丸太」（径14～22cm、長3.65～4m）の価格は低下傾向で推移しており、年平均では3万1,500円で前年に比べ6,300円低下した。

エ 「なら大丸太」（径40～48cm、長2.4m上）の価格は低下傾向で推移しており、年平均では3万8,500円で前年に比べ1,100円低下した。

オ 「米つが丸太」（径30cm上、長6m上）の価格は低下傾向で推移しており、年平均では2万1,700円で前年に比べ200円低下した。

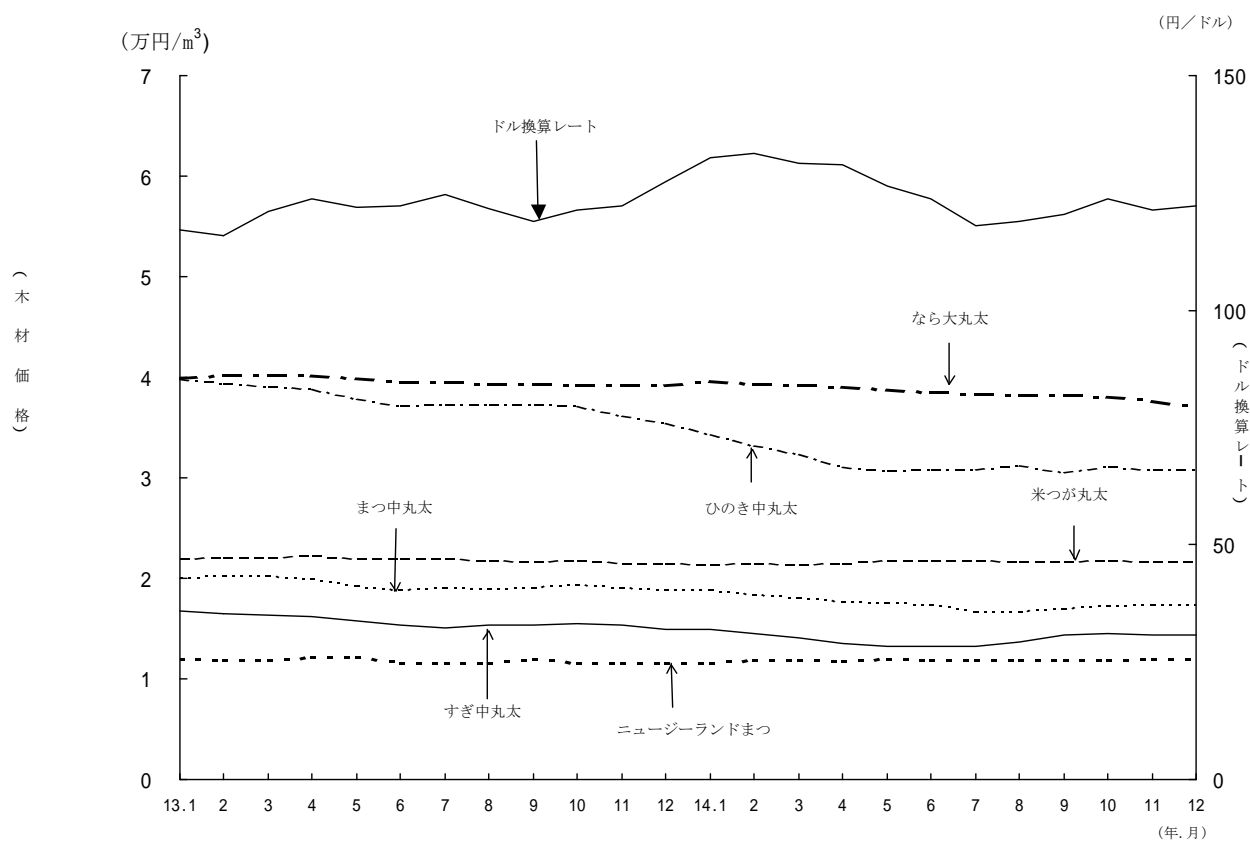
カ 「ニュージーランドまつ丸太」（径30cm上、長4.8m上）の価格は年間を通して安定した価格で推移しており、年平均では1万1,800円で前年並みとなった。

第15表 素 材 価 格

単位：1㎡当たり円

年 次	まつ中丸太	す ぎ 中 丸 太	ひ の き 中 丸 太	な ら 大 丸 太	米 つ が 丸 太	ニュージーランド まつ丸太
	径24～28cm 長3.65～4m	径14～22cm 長3.65～4m	径14～22cm 長3.65～4m	径40～48cm 長2.4m上	径30.0cm上 長6.0m上	径30cm上 長4.8m上
平均価格						
平. 12	19 900	17 200	40 200	40 200	22 300	11 600
13	19 500	15 700	37 800	39 600	21 900	11 800
14	17 600	14 000	31 500	38 500	21 700	11 800
対前年差						
平. 12	△ 900	△ 1 600	△ 2 300	△ 2 700	△ 1 300	△ 700
13	400	1 500	2 400	600	400	200
14	1 900	1 700	6 300	1 100	200	0

図10 素材価格の推移



(2) 木材製品卸売価格 (第16表、図11)

ア 製材品

- (ア) 「すぎ正角」 (10.5cm角×3m) の価格は低下傾向で推移し、後半から上昇傾向に転じたものの、年平均では4万2,000円で前年に比べ2,700円低下した。
- (イ) 「ひのき正角」 (10.5cm角×3m) の価格は低下傾向で推移しており、年平均では6万9,100円で前年に比べ3,900円低下した。
- (ウ) 「米つが正角」 (10.5cm角×3m) の価格は上昇傾向で推移しており、年平均では4万9,100円で前年に比べ100円上昇した。
- (エ) 「北洋えぞまつ板」の価格は低下傾向で推移しており、年平均では4万6,500円で前年に比べ800円低下した。

イ 合板

「ラワン合板」 (厚さ 1.2cm型わく用) の価格は、年の前半は上昇傾向で推移したものの、後半は安定し、年平均では1,030円で前年に比べ60円上昇した。

第16表 木材製品卸売価格

単位：1 m³当たり円

年次	すぎ正角		ひのき正角		米つが正角		北洋えぞまつ板		ラワン合板 (1枚当たり)	
	厚	幅	厚	幅	厚	幅	厚	幅	厚	幅
	10.5	10.5	10.5	10.5	10.5	10.5	1.2~1.5	15.0	1.2	90.0
	cm	cm	cm	cm	cm	cm	cm	cm	cm	cm
	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.65~4.0	1.80	1.80	1.80
	m	m	m	m	m	m	m	m	m	m
平均価格										
平. 12	47 300		75 700		50 100		46 800		970	
13	44 700		73 000		49 000		47 300		970	
14	42 000		69 100		49 100		46 500		1 030	
対前年差										
平. 12	△ 1 000		100		△ 500		1 500		△ 110	
13	2 600		2 700		1 100		500		0	
14	2 700		3 900		100		800		60	

図11 木材製品卸売価格の推移

